

十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火予報（噴火警戒レベル1：活火山であることに留意）が継続＞
14日に、十勝岳で傾斜変動と同期した火山性微動が発生し、一時的に火山性地震も増加しました。
十勝岳では、火山活動がやや高まった状態になっていますので、今後の活動推移には注意が必要です。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況（図1～4）

14日08時51分頃から継続時間約5分の火山性微動が発生し、その後振幅の小さな火山性地震が増加しました。これらと同期して、62-2火口方向が上がる傾斜変動が観測されました。また、09時45分頃からは、継続時間約8分の火山性微動が発生しました。09時52分頃からは、62-2火口方向が上がる急な傾斜変動が観測され、火山性微動の終了後、62-2火口方向が下がる傾斜変動に反転しました。14日00時から11時までに、火山性地震は約70回（速報値）発生しています。10時以降、火山性地震は少ない状態で経過しています。

監視カメラによる観測では、62-2火口等の噴煙・噴気の様子に特段の変化はありませんでした。
また、空振計のデータにも変化はありません。

この火山活動解説資料は、札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、北海道大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情復、第958号）。



火口周辺図

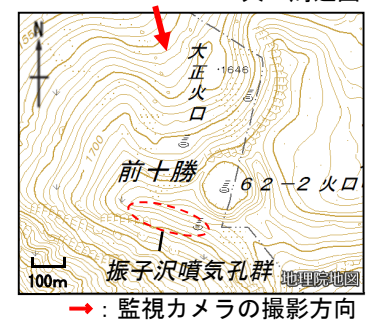


図1 十勝岳 北西側から見た火口周辺の状況及び火口周辺図
(9月14日、白金模範牧場監視カメラによる)
・火山性微動が発生していた時間帯に、62-2火口等の噴煙・噴気の様子に特段の変化はありませんでした。

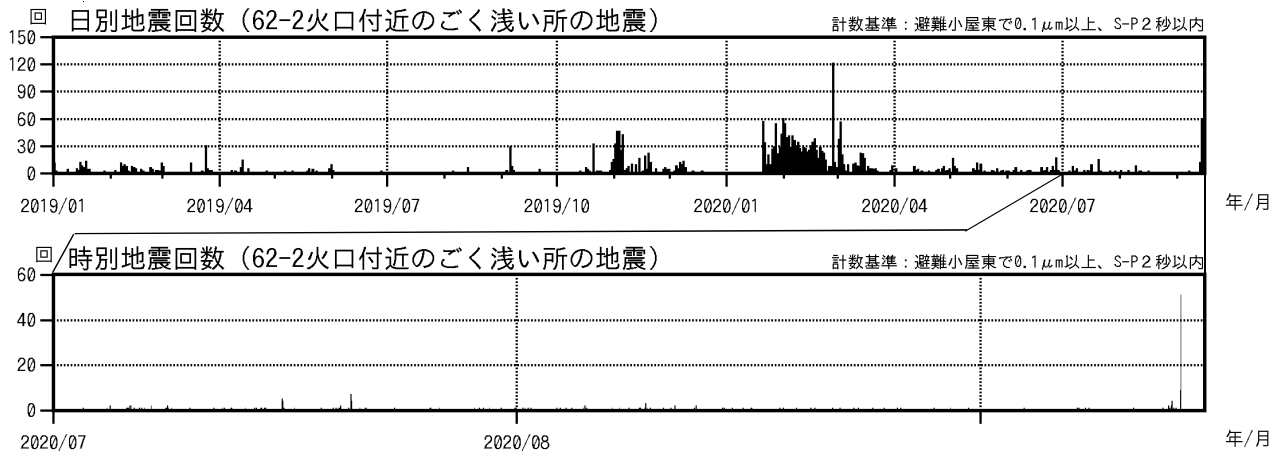


図2 十勝岳 火山性地震の発生状況 (2019年1月~2020年9月14日)
避難小屋東地震観測点における変位振幅0.1 μm 以上、S-P 2秒以内の地震を計数しています。

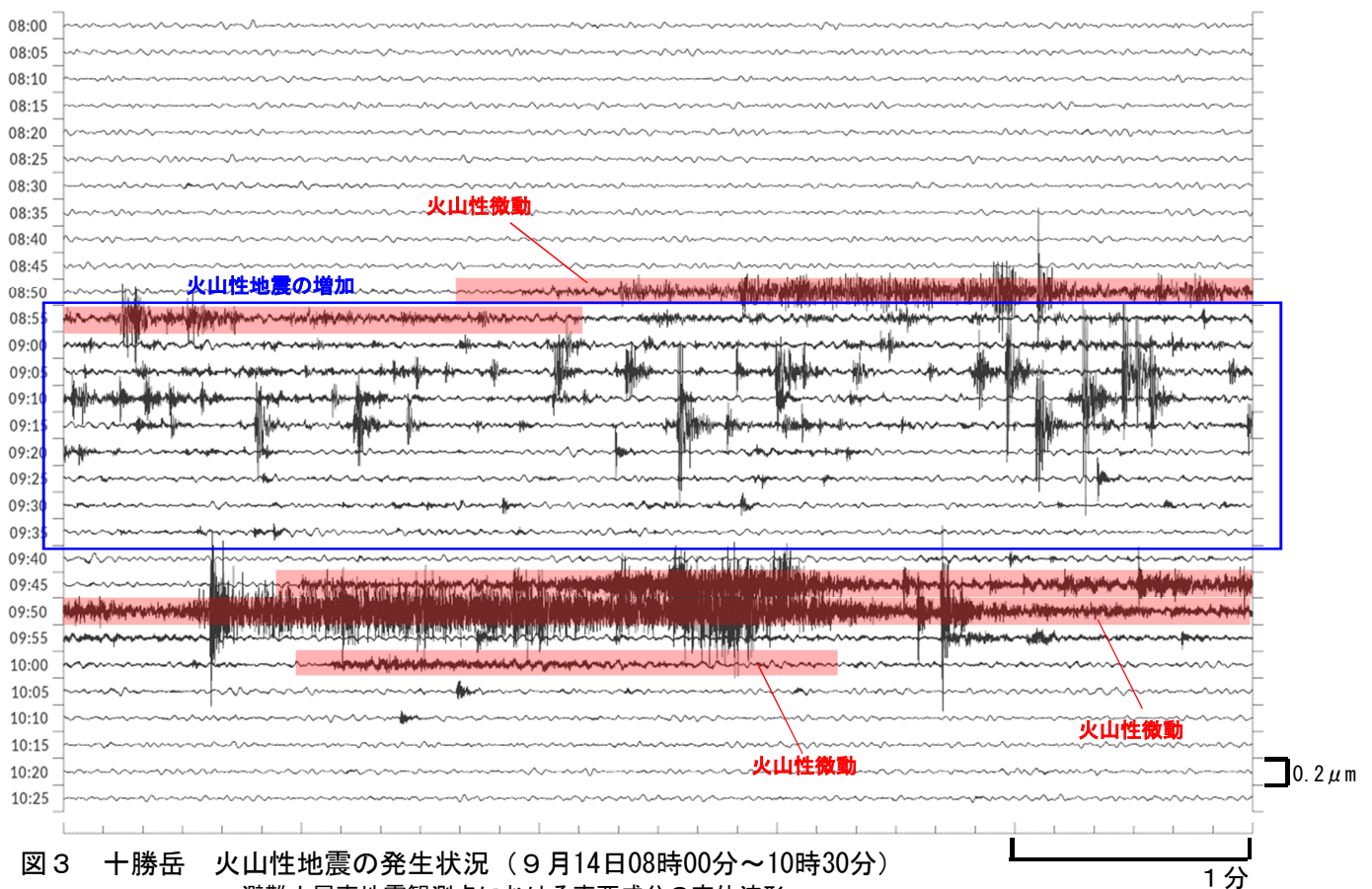


図3 十勝岳 火山性地震の発生状況 (9月14日08時00分~10時30分)
避難小屋東地震観測点における東西成分の変位波形

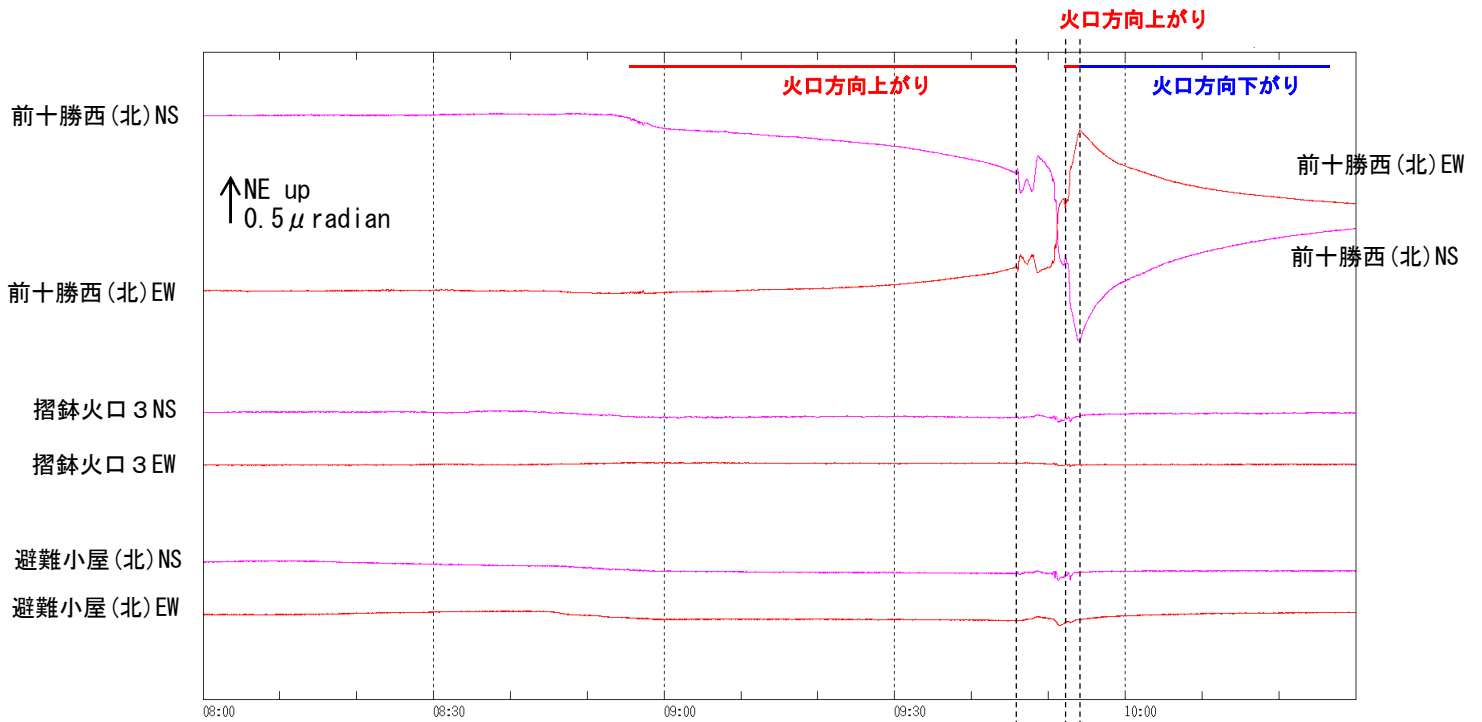


図4 十勝岳 9月14日08時00分から10時30分までの傾斜変動(秒値)

- ・ 8時51分頃から62-2火口方向が上がる傾斜変動を観測しました。9時45分頃からは火口方向が上下する傾斜変動を繰り返し、その後09時52分頃から62-2火口方向が上がる急な傾斜変動が観測されました。09時54分頃に62-2火口方向が下がる傾斜変動に反転しました。

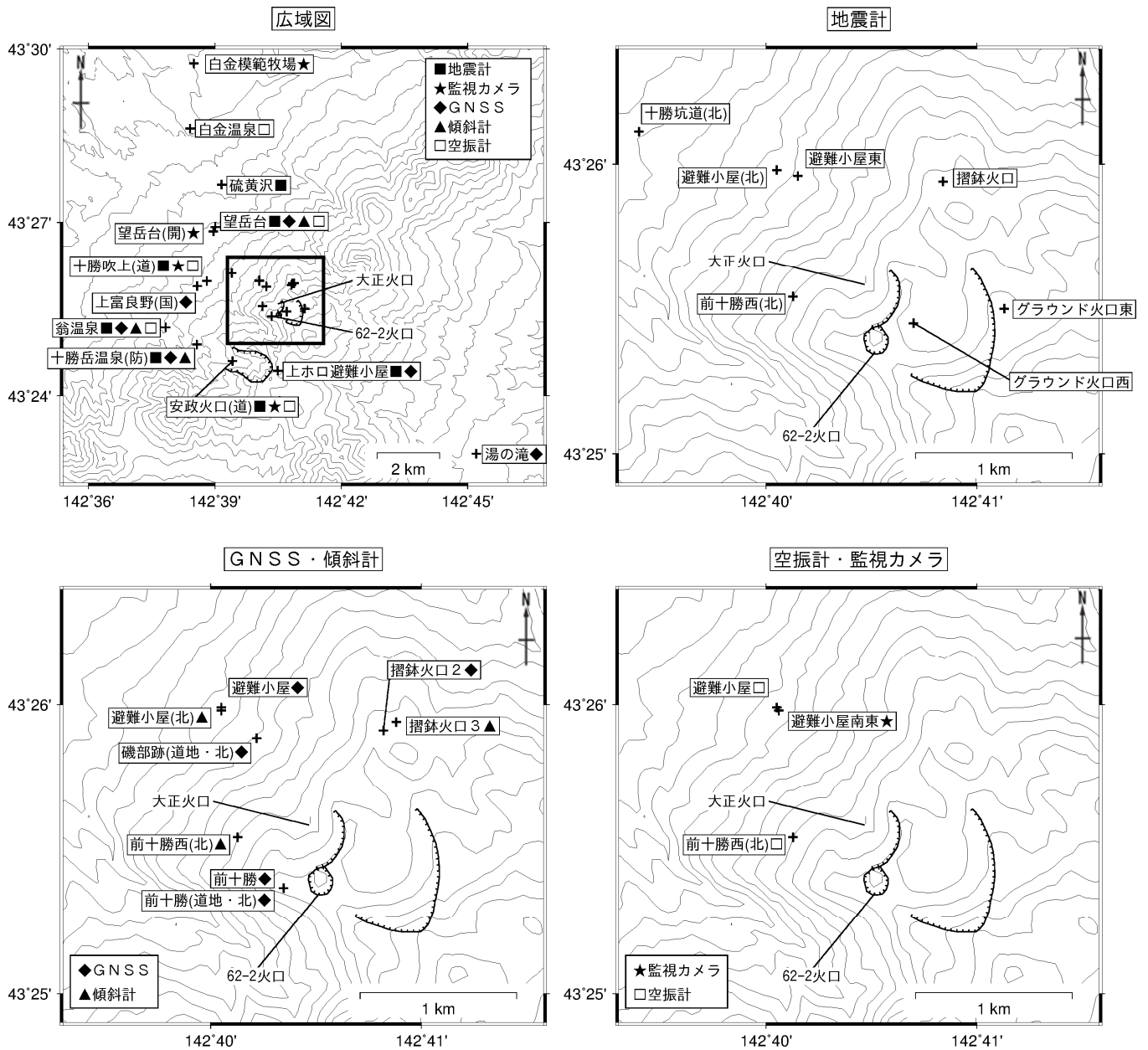


図5 十勝岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の口で示した領域を拡大したものです。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

- (開) : 国土交通省北海道開発局
- (国) : 国土地理院
- (北) : 北海道大学
- (防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所
- (道) : 北海道
- (道地) : 地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所